

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

T. Nose
Filed 10/12/01
Q65614
1 of 1

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年10月13日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-314274

出 願 人

Applicant(s):

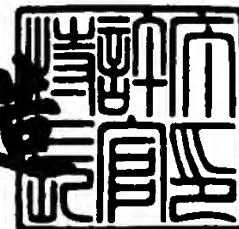
日本電気株式会社



2001年 7月27日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

及川耕造



【書類名】 特許願

【整理番号】 72310238

【提出日】 平成12年10月13日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G02F 1/133

【発明の名称】 液晶表示装置及びコンピュータ

【請求項の数】 12

【発明者】

【住所又は居所】 東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株式会社内

【氏名】 能勢 崇

【特許出願人】

【識別番号】 000004237

【氏名又は名称】 日本電気株式会社

【代理人】

【識別番号】 100108578

【弁理士】

【氏名又は名称】 高橋 詔男

【代理人】

【識別番号】 100064908

【弁理士】

【氏名又は名称】 志賀 正武

【選任した代理人】

【識別番号】 100101465

【弁理士】

【氏名又は名称】 青山 正和

【選任した代理人】

【識別番号】 100108453

【弁理士】

【氏名又は名称】 村山 靖彦

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 008707

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9709418

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 液晶表示装置及びコンピュータ

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 液晶表示パネル部と、当該液晶表示パネル部の裏面を照明するバックライトとを備え、入力される画像データに応じた画像を表示する液晶表示装置であって、

前記液晶表示パネル部に表示される画像が動画像であるか又は静止画像であるかに基づいて前記バックライトの輝度を制御することにより前記液晶表示パネル部の表示輝度を可変制御する輝度制御手段を具備することを特徴とする液晶表示装置。

【請求項 2】 前記液晶表示パネル部に表示される画像が動画像である場合に、前記動画像の一部又は全体を所定時間単色表示とする表示制御手段を更に具備することを特徴とする請求項 1 記載の液晶表示装置。

【請求項 3】 前記液晶表示パネル部には、複数の走査線及び複数の信号線が格子状に配置され、

前記表示制御手段は、前記走査線の何れか 1 つを走査するのに必要な時間より短い時間内に設定された第 1 走査期間と第 2 走査期間とを設定し、前記第 1 走査期間において、前記信号線を介して前記画像データに応じた画像を表示し、前記第 2 走査期間において、前記信号線を介して単色の画像を表示することにより前記単色表示を行うことを特徴とする請求項 2 記載の液晶表示装置。

【請求項 4】 前記表示制御手段は、同一の走査線に関して、前記第 1 走査期間と前記第 2 走査期間とを時間的に離間して設定し、ある走査線の前記第 1 走査期間において前記画像データに応じた画像を表示し、前記画像を表示した走査線に対して所定数の走査線分離間した走査線の前記第 2 走査期間において前記単色の画像を表示することを特徴とする請求項 3 記載の液晶表示装置。

【請求項 5】 前記表示制御手段は、前記単色の画像を所定数の連続した走査線に表示することを特徴とする請求項 4 記載の液晶表示装置。

【請求項 6】 前記単色の画像は「黒」色の画像であることを特徴とする請求項 3 から請求項 5 の何れか一項に記載の液晶表示装置。

【請求項 7】 前記液晶表示パネル部に表示される画像が動画像であるか又は静止画像であるかを示す画像判別信号を入力する判別信号入力端を具備することを特徴とする請求項 1 から請求項 6 の何れか一項に記載の液晶表示装置。

【請求項 8】 前記画像判別信号は、前記液晶表示パネル部に表示される画像が動画像であるか否かを、前記液晶表示パネル部の表示領域と前記動画像が表示される領域との面積比に応じて定められる信号であることを特徴とする請求項 7 記載の液晶表示装置。

【請求項 9】 動画像を表示する領域用に所定のキーカラー情報を格納するメモリエリアを含んだ表示用画像情報を含むオンスクリーン領域と、前記動画像の画像情報を含むオフスクリーン領域とを含むメモリと、

前記オンスクリーン領域から前記表示用画像情報を、前記オフスクリーン領域から前記動画像の画像情報を読み出し、前記表示用画像情報が前記キーカラー情報でない場合、前記表示用画像情報に対応する画像情報を前記液晶表示装置に出力し、前記表示用画像情報が前記キーカラー情報である場合、前記動画像の画像情報を前記液晶表示装置に出力するオーバーレイ選択回路とを有するコンピュータであって、

前記液晶表示パネル部に表示される画像が動画像であるか否かを判別する前記面積比を格納する動画・静止画判別用領域閾値メモリを具備し、

前記オンスクリーン領域内の前記液晶表示パネル部の表示領域である前記表示用画像情報と、前記キーカラー情報が格納された領域との領域比を検出し、前記領域比と前記動画・静止画判別用領域閾値メモリ内に格納された前記面積比とを比較し、前記液晶表示装置に前記画像判別信号を出力する液晶キーカラー領域検出・比較回路を具備することを特徴とする請求項 8 に記載の液晶表示装置に画像を表示するためのコンピュータ。

【請求項 10】 前記液晶表示パネル部に表示される画像が動画像であるか又は静止画像であるかを、入力される画像データに基づいて判定する判定手段を更に具備することを特徴とする請求項 1 から請求項 6 の何れか一項に記載の液晶表示装置。

【請求項 11】 前記判定手段は、所定数のフレーム分の画像データを記憶

する記憶手段と、

前記フレーム間の画像の動き量を検出し、動画像であるか否かを判断する比較判定手段と

を具備することを特徴とする請求項 1 0 記載の液晶表示装置。

【請求項 1 2】 前記比較判定手段は、前記フレームに複数の検出領域を設定し、動き量が検出された検出領域が所定数以上の場合に動画像であると判定することを特徴とする請求項 1 1 記載の液晶表示装置。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、液晶表示装置及びコンピュータに係り、特に動画表示に適したアクティブマトリクス型の液晶表示装置及び当該液晶表示装置に適用して好適なコンピュータに関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

近年、液晶表示装置（Liquid Crystal Display（LCD））の表示画面は大型化、高精細化が進み、表示される画像もパーソナルコンピュータやワードプロセッサ等に用いられる液晶表示装置のように主として静止画像を扱うものから、TV等として用いられる液晶表示装置のように動画像を扱う分野にも普及しつつある。また、近年においては動画像の圧縮技術が進歩してパーソナルコンピュータでも動画像を扱うことが容易となったため、パーソナルコンピュータ等に用いられる液晶表示装置においても、動画像を表示する頻度が増加している。LCDは、CRT（Cathod Ray Tube）を備えるTVに比べて薄型であり、場所をさほど占有せずに設置することができるため、今後一般家庭への普及率が高くなるものと考えられる。

【0 0 0 3】

図 1 1 は、従来の液晶表示装置の概略構成を示すブロック図である。尚、図 1 1 においては、パーソナルコンピュータ等のコンピュータ 1 0 0 と液晶表示部 1 1 0 とが個別に設けられている場合を例に挙げて図示している。図 1 1 に示した

ように、コンピュータ 100 から液晶表示部 110 へ階調データ D100 と同期データ D101 とが出力される。階調データは例えば RGB 信号であり、同期データは垂直同期信号、水平同期信号、データイネーブル信号 (DE)、及びクロック等を含むデータである。

【0004】

液晶表示部 110 は、LCD コントローラ 112、液晶表示パネル部 114、信号線駆動回路 116、走査線駆動回路 118、基準階調電圧発生部 120、バックライト 122、及びバックライト用インバータ 124 を含んで構成される。LCD コントローラ 112 は、コンピュータ 100 から出力される階調データ D100 及び同期データ D101 に基づいて信号線駆動回路 116 へ出力する階調データ D110 及び信号側制御信号 D111 を生成するとともに走査線駆動回路 118 へ出力する走査側制御信号 D112 を生成し、液晶表示パネル部 114 においてなされる画像表示内容の表示制御を行う。

【0005】

ここで、図 12 を参照して液晶表示パネル部 114 の構成について説明する。図 12 は、従来のアクティブマトリクス型 LCD の構成の一例を示す図である。図 12 においては図示を省略しているが、LCD は第 1 及び第 2 のガラス基板を備えている。第 1 のガラス基板上には、 n (n は自然数) 本の走査線 131 と m (m は自然数) 本の信号線 132 が格子状に配置され、走査線 131 と信号線 132 の各交差部付近に非線形素子 (スイッチング素子) である TFT (Thin Film Transistor) 133 が設けられている。

【0006】

TFT 133 のゲート電極は走査線 131 に接続され、ソース電極は信号線 132 に接続され、ドレイン電極は画素電極 134 に接続されている。上記第 2 のガラス基板は第 1 のガラス基板と対向する位置に配置され、ITO 等の透明電極によりガラス基板表面の一面に共通電極 135 が形成されている。この共通電極 135 各々は共通電極駆動回路 136 に接続され、共通電極駆動回路 136 によって電位が設定される。そして、この共通電極 135 と第 1 のガラス基板上に形成された画素電極 134 との間に液晶が封入されている。

【 0 0 0 7 】

上記走査線 1 3 1 及び信号線 1 3 2 は、走査線駆動回路 1 1 8 及び信号線駆動回路 1 1 6 にそれぞれ接続されている。走査線駆動回路 1 1 8 は n 本の走査線 1 3 1 に対して高電位を順次印加することによって走査を行い、各走査線 1 3 1 に接続された T F T 1 3 3 をオン状態とする。走査線駆動回路 1 1 8 が走査線 1 3 1 を走査している状態において、信号線駆動回路 1 1 6 が画像データに応じた階調電圧を m 本の信号線 1 3 2 の何れかに出力することにより、オン状態となっている T F T 1 3 3 を介して画素電極 1 3 4 に階調電圧が書き込まれ、一定の電位に設定された共通電極 1 3 5 と画素電極 1 3 4 に書き込まれた階調電圧との電位差により光の透過量が制御される。

【 0 0 0 8 】

ここで、図 1 1 に示したように、液晶表示部 1 1 0 はバックライト 1 2 2 とバックライト 1 2 2 に電源を供給するバックライト用インバータ 1 2 4 を備える。液晶表示部 1 1 0 が動作している状態においてバックライト 1 2 2 は一定の輝度をもって発光しているため、上述した動作原理によってバックライト 1 2 2 から射出された光の透過量が制御されて表示が行われる。尚、図 1 1 に示した基準階調電圧発生部 1 2 0 は信号線駆動回路 1 1 6 に対して基準階調電圧を供給する。

【 0 0 0 9 】

図 1 3 は、従来の液晶表示装置が備える走査線駆動回路 1 1 8 及び信号線駆動回路 1 1 6 から走査線 1 3 1 及び信号線 1 3 2 にそれぞれ出力される信号の波形を示す図である。尚、図 1 3 中において、横軸は時間を設定しており、V G 1 ~ V G n は各走査線 1 3 1 に印加される走査信号の波形をそれぞれ示している。図示されたように、走査信号 V G 1 ~ V G n は一時に 1 本の走査線 1 3 1 のみに高電位が印加され、n 本の走査線 1 3 1 に対して順次出力される信号である。また、V D はある 1 本の信号線 1 3 2 に出力される信号の波形を示しており、V c o m は共通電極 1 3 5 に印加される信号の波形を示している。図 1 3 に示した例において、信号 V D は各画像データに応じて信号強度が変化する信号であり、信号 V c o m は一定の値を有し、経時的に変化しない信号である。

【 0 0 1 0 】

以上、従来の液晶表示装置及びその駆動方法について説明したが、従来の液晶表示装置では、各画素電極 1 3 4 に印加された電圧は次に走査線が選択されるまで保持され、1 フレーム期間の透過光は一定となる。これに対して、C R T は電子ビームを用いて順次走査を行っている。この L C D において動画像の表示を行った場合、現状では残像現象等の画質劣化を引き起こすという問題が生じる。この原因は、液晶材料の応答速度が遅く、階調変化が起きると 1 フィールド期間では階調変化に追従できず、数フィールド期間を要して累積応答するためと考えられていたため、この問題を解決する方策として様々な高速応答の液晶材料等の研究が進められている。

【 0 0 1 1 】

しかしながら、上記の残像現象等の問題は、液晶の応答速度だけに原因があるのではなく、L C D の表示方法に起因するという報告が N H K 放送技術研究所等からなされている（例えば、1 9 9 9 年電子情報通信学会総合大会、S C - 8 - 1、p p. 2 0 7 - 2 0 8 等を参照されたい）。以下、L C D の表示方法の問題について、C R T の駆動方法と L C D の駆動方法とを比較して説明する。

【 0 0 1 2 】

図 1 4 は、ある画素について C R T と L C D の表示光の時間応答の比較結果を示す図であり、(a) は C R T の時間応答を示す図であって、(b) は L C D の時間応答を示す図である。図 1 4 (a) に示されたように、C R T は、電子ビームが管面の蛍光体に当たった時点から数ミリ秒の間だけ光を発する、いわばインパルス型表示装置であるのに対し、図 1 4 (b) に示された L C D は画素へのデータの書き込みが終わった時点から次の書き込みに至るまで 1 フィールド期間表示光を保持するいわゆるホールド型表示装置である。

【 0 0 1 3 】

かかる特性を有する C R T 及び L C D で動画像を表示する場合、図 1 5 に示す表示が行われる。図 1 5 は、C R T 及び L C D で動画像を表示した場合の画像の表示例を示す図であり、(a) は C R T の表示例を示す図であって、(b) は L C D の表示例を示す図である。いま、図 1 5 (a)、図 1 5 (b) に示されたように、円形の表示物が図中 x 方向に移動する場合を考える。この場合、図 1 5 (

a) に示されたように、インパルス型表示装置である C R T は時間に対応した位置に表示物が瞬時的に表示されるのに対し、ホールド型表示装置である L C D では、新たに書き込みを行う直前まで 1 フィールド前の画像が残ることになる。

【 0 0 1 4 】

図 1 5 に示したように表示される動画像を人間が見る場合、その動画像は図 1 6 に示すように視認されることになる。図 1 6 は、C R T 及び L C D で動画像を表示する場合に、人間によって視認される画像を説明するための図であり、(a) は C R T の場合、(b) は L C D の場合である。図 1 6 (a) に示したように、インパルス型表示装置の C R T で動画を表示した場合、ある時点において表示された画像がその前の画像と重なって表示されていると視認することはない。しかしながら、ホールド型表示装置の L C D で動画を表示すると、視覚の時間積分効果等により現在表示されている画像と前に表示された画像とが重なった状態で視認することになり、動きぼけの問題が生ずる。

【 0 0 1 5 】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、上述した L C D で動画像を表示する場合に生ずる問題に対して液晶表示パネル部 1 1 4 の各画素電極 1 3 4 に画像データに応じた電圧が印加される前に黒画像に応じた電圧を入力することにより表示光のホールド時間を短縮して動きぼけを防止する方法がいくつか提案されている。図 1 7 は、各画像データ間に黒画像を挿入して動きぼけを防止する方法を説明する図である。この方法の基本は、図 1 7 (a) に示されるように水平ブランキング期間に黒表示になる所定電圧を液晶に印加するようにして動きぼけを防止する。つまり、1 フィールドの画像を表示した後に、画面全体の黒表示を行い、次のフィールドの画像を表示するというものである。しかしながら、この方法で表示を行うと、表示時間が液晶表示パネル部 1 1 4 の垂直方向で異なるため、図 1 7 (c) 中のパネル表示例に示されるように液晶表示パネル部 1 1 4 の場所により輝度差が生じるという問題が生ずる。

【 0 0 1 6 】

この輝度差の発生を抑える方法が特開平 9 - 1 2 7 9 1 7 号公報、特開平 1 0

－ 6 2 8 1 1 号公報、特開平 1 1－3 0 7 8 9 号公報等で提案されている。図 1 8 は、図 1 7 (a) に示した方法によって生ずる問題を解決する液晶表示装置の構成を示す図である。この構成は、上記特開平 9－1 2 7 9 1 7 号公報で提案されている。尚、図 1 2 に示した従来の液晶表示装置と同一の部材には同一の符号を付している。

【 0 0 1 7 】

図 1 8 では、図 1 2 に示した従来の回路構成に黒信号供給部 1 4 0、黒信号供給線 1 4 1、黒信号供給用走査線 1 4 2、黒信号供給用 T F T 1 4 3、及び黒信号供給用走査線 1 4 2 を駆動するための走査線駆動回路 1 4 4 が「黒」表示書き込み用の回路として新たに設けられている。上記黒信号供給用 T F T 1 4 3 のゲート電極は黒信号供給用走査線 1 4 2 に接続され、黒信号供給用 T F T 1 4 3 のソース電極は黒信号供給線 1 4 1 に接続され、ドレイン電極は T F T 1 3 3 のドレイン電極及び画素電極 1 3 4 にそれぞれ接続されている。

【 0 0 1 8 】

上記構成における液晶表示装置では、1 フィールド内で画素電極 1 3 4 に「黒」表示に応じた電圧を印加し、その後、画像データに応じた電圧を画素電極 1 3 4 に印加する。このように駆動することで、図 1 7 (b) に示したパネル表示例のように走査線毎にリセットされることとなる。つまり、一画面分の画像を表示した後、画面全体を「黒」表示にすることによってリセットを行うのではなく、走査線単位でリセットを行うことにより、図 1 7 (d) に示したパネル表示例のように、黒画面を挿入することによる輝度差の発生を無くしている。

【 0 0 1 9 】

しかしながら、図 1 7 を用いて説明した動きぼけを防止する方法及び図 1 8 に示した回路を用いて動きぼけの低減を図る方法の何れにおいても、ホールド型表示装置において有利とされる静止画像表示においても黒画面を挿入するため、フリッカ等の画質劣化を引き起こすという問題がある。また、黒画面を挿入した場合には表示画面の明るさが低下するため、黒画面を挿入しない場合において得られる明るさと同程度の明るさを得るためには、バックライトの輝度を高く設定する必要があり、電力を無駄に消費してしまうという問題がある。

【 0 0 2 0 】

本発明は、上記事情に鑑みてなされたものであり、動画像を表示させる場合には、輝度低下を招かずに動きぼけを防止した表示を行うことができ、静止画像を表示させる場合にはフリッカ等の画質劣化を招かずに無駄な電力消費を抑制することができる液晶表示装置を提供し、更に当該液晶表示装置に適用して好適なコンピュータを提供することを目的とする。

【 0 0 2 1 】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するために、本発明の第1の観点による液晶表示装置は、液晶表示パネル部と、当該液晶表示パネル部の裏面を照明するバックライトとを備え、入力される画像データに応じた画像を表示する液晶表示装置であって、前記液晶表示パネル部に表示される画像が動画像であるか又は静止画像であるかに基づいて前記バックライトの輝度を制御することにより前記液晶表示パネル部の表示輝度を可変制御する輝度制御手段を具備することを特徴としている。

また、本発明の第2の観点による液晶表示装置は、第1の観点による液晶表示装置において、前記液晶表示パネル部に表示される画像が動画像である場合に、前記動画像の一部又は全体を所定時間単色表示とする表示制御手段を更に具備することを特徴としている。

また、本発明の第3の観点による液晶表示装置は、第2の観点による液晶表示装置において、前記液晶表示パネル部には、複数の走査線及び複数の信号線が格子状に配置され、前記表示制御手段は、前記走査線の何れか1つを走査するのに必要な時間より短い時間内に設定された第1走査期間と第2走査期間とを設定し、前記第1走査期間において、前記信号線を介して前記画像データに応じた画像を表示し、前記第2走査期間において、前記信号線を介して単色の画像を表示することにより前記単色表示を行うことを特徴としている。

また、本発明の第4の観点による液晶表示装置は、第3の観点による液晶表示装置において、前記表示制御手段は、同一の走査線に関して、前記第1走査期間と前記第2走査期間とを時間的に離間して設定し、ある走査線の前記第1走査期間において前記画像データに応じた画像を表示し、前記画像を表示した走査線に

対して所定数の走査線分離間した走査線の前記第 2 走査期間において前記単色の画像を表示することを特徴としている。

また、本発明の第 5 の観点による液晶表示装置は、第 4 の観点による液晶表示装置において、前記表示制御手段は、前記単色の画像を所定数の連続した走査線に表示することを特徴としている。

また、本発明の第 6 の観点による液晶表示装置は、第 3 の観点から第 5 の観点の何れかの観点による液晶表示装置において、前記単色の画像は「黒」色の画像であることを特徴としている。

また、本発明の第 7 の観点による液晶表示装置は、第 1 の観点から第 6 の観点の何れかの観点による液晶表示装置において、前記液晶表示パネル部に表示される画像が動画像であるか又は静止画像であることを示す画像判別信号を入力する判別信号入力端を具備することを特徴としている。

また、本発明の第 8 の観点による液晶表示装置は、第 7 の観点による液晶表示装置において、前記画像判別信号は、前記液晶表示パネル部に表示される画像が動画像であるか否かを、前記液晶表示パネル部の表示領域と前記動画像が表示される領域との面積比に応じて定められる信号であることを特徴としている。

また、本発明の第 9 の観点による液晶表示装置は、第 1 の観点から第 6 の観点の何れかの観点による液晶表示装置において、前記液晶表示パネル部に表示される画像が動画像であるか又は静止画像であることを、入力される画像データに基づいて判定する判定手段を更に具備することを特徴としている。

また、本発明の第 1 0 の観点による液晶表示装置は、第 9 の観点による液晶表示装置において、前記判定手段は、所定数のフレーム分の画像データを記憶する記憶手段と、前記フレーム間の画像の動き量を検出し、動画像であるか否かを判断する比較判定手段とを具備することを特徴としている。

また、本発明の第 1 1 の観点による液晶表示装置は、第 1 0 の観点による液晶表示装置において、前記比較判定手段は、前記フレームに複数の検出領域を設定し、動き量が検出された検出領域が所定数以上の場合に動画像であると判定することを特徴としている。

また、本発明のコンピュータは、動画像を表示する領域用に所定のキーカラー

情報を格納するメモリエリアを含んだ表示用画像情報を含むオンスクリーン領域と、前記動画像の画像情報を含むオフスクリーン領域とを含むメモリと、前記オンスクリーン領域から前記表示用画像情報を、前記オフスクリーン領域から前記動画像の画像情報を読み出し、前記表示用画像情報が前記キーカラー情報でない場合、前記表示用画像情報に対応する画像情報を前記液晶表示装置に出力し、前記表示用画像情報が前記キーカラー情報である場合、前記動画像の画像情報を前記液晶表示装置に出力するオーバーレイ選択回路とを有するコンピュータであって、前記液晶表示パネル部に表示される画像が動画像であるか否かを判別する前記面積比を格納する動画・静止画判別用領域閾値メモリを具備し、前記オンスクリーン領域内の前記液晶表示パネル部の表示領域である前記表示用画像情報と、前記キーカラー情報が格納された領域との領域比を検出し、前記領域比と前記動画・静止画判別用領域閾値メモリ内に格納された前記面積比とを比較し、前記液晶表示装置に前記画像判別信号を出力する液晶キーカラー領域検出・比較回路を具備することを特徴とする上記第 8 の観点による液晶表示装置に画像を表示するためのコンピュータである。

【 0 0 2 2 】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して本発明の実施形態による液晶表示装置について詳細に説明する。

〔第 1 実施形態〕

図 1 は、本発明の第 1 実施形態による液晶表示装置の概略構成を示す機能ブロック図である。図 1 に示した本発明の第 1 実施形態による液晶表示装置 4 0 は、パーソナルコンピュータ等のコンピュータ 3 0 と液晶表示装置 4 0 とが個別に設けられている場合を例に挙げて図示している。本実施形態においては、コンピュータ 3 0 から液晶表示装置 4 0 へ階調データ D 1 0、同期データ D 1 1、及び画像判別信号 J 1 が出力される。

【 0 0 2 3 】

階調データ D 1 0 及び同期データ D 1 1 は、図 1 1 に示した階調データ D 1 0 0 及び同期データ D 1 0 1 とそれぞれ同様の信号であり、階調データ D 1 0 は例

例えばRGB信号であり、同期データD11は垂直同期信号、水平同期信号、データイネーブル信号（DE）、及びクロック等を含むデータである。画像判別信号J1は、コンピュータ30から液晶表示装置40へ出力される画像データ（階調データD10及び同期データD11で構成される信号）が動画像であるか否かを示す1ビットの信号である。

【0024】

つまり、画像判別信号J1が「H（ハイ）」である場合には、画像データが動画像であることを意味し、「L（ロー）」である場合には画像データが静止画像であることを意味する。この画像判別信号J1は、例えば動画像を扱うアプリケーションがコンピュータ30で起動されている場合に、その値が「H」となるよう設定される。また、コンピュータ30がTVチューナを備え、画像データがTVチューナから出力される信号に基づくものであるときに、その値が「H」に設定される。更に、コンピュータ30のユーザの手動によって、その値を設定するようにしてもよい。

【0025】

液晶表示装置40は、LCDコントローラ42、液晶表示パネル部44、信号線駆動回路46、走査線駆動回路48、基準階調電圧発生部50、バックライト52、バックライト用インバータ54、及びバックライト制御回路56を含んで構成される。LCDコントローラ42は、コンピュータ30から出力される階調データD10及び同期データD11に基づいて信号線駆動回路46へ出力する階調データD20及び信号側制御信号D21を生成するとともに走査線駆動回路48へ出力する走査側制御信号D22を生成し、液晶表示パネル部44においてなされる画像表示内容の表示制御を行う。

【0026】

また、図示は省略しているが、液晶表示装置40にはコンピュータ30から出力される画像判別信号J1をLCDコントローラ42及びバックライト制御回路56へ出力するための判別信号入力端子が設けられている。LCDコントローラ42は、判別信号入力端子を介した画像判別信号J1に基づいて動画像を表示する際に、動きぼけ防止のための「黒」表示を行うか否かを制御する。「黒」表示

を行った場合には、動画像を表示する場合及び静止画像を表示する場合の何れの場合であっても液晶表示パネル部 4 4 でなされる表示輝度が低下する。動きぼけを防止するために動画像表示時に「黒」表示を行う必要があるが、静止画像では動き自体がないため「黒」表示を行う必要がない。そこで、画像判別信号 J 1 に基づいて L C D コントローラ 4 2 は、静止画像を表示する際に「黒」表示を行わず、従来の線順次駆動を行うように制御する。

【 0 0 2 7 】

バックライト制御回路 5 6 は、判別信号入力端子を介して入力される画像判別信号 J 1 に基づいて、液晶表示パネル部 4 4 の裏面を照明するバックライト 5 2 から発せられる光の輝度を制御する制御信号をバックライト用インバータ 5 4 へ出力する。具体的には、画像判別信号 J 1 が動画像を示すものである場合には、動き防止のために行う「黒」表示に起因する表示輝度の低下を防止するためバックライト 5 2 から発せられる光の輝度を高く設定する。一方、静止画像を示すものである場合には、L C D コントローラ 4 2 が「黒」表示を行わないよう制御するため、消費電力低減の観点からバックライト 5 2 から発せられる光の輝度を低く設定する。尚、基準階調電圧発生部 5 0 は、図 1 1 に示した基準階調電圧発生部 1 2 0 と同様のものである。

【 0 0 2 8 】

次に、図 2 を参照して液晶表示パネル部 4 4 の構成について説明する。図 2 は、液晶表示パネル部 4 4 の構成並びに信号線駆動回路 4 6 及び走査線駆動回路 4 8 から液晶表示パネル部 4 4 へ出力される信号の一部の波形を示す図である。尚、図 2 に示した信号波形は、動画像を表示する際に信号線駆動回路 4 6 及び走査線駆動回路 4 8 各々から出力される信号波形であり、静止画像の場合には、図 1 3 に示した従来と同様の信号波形が出力されて線順次駆動が行われる。

【 0 0 2 9 】

図 2 に示した液晶表示パネル部 4 4 は、図 1 2 に示した従来の液晶表示部 1 1 4 と同様に、第 1 及び第 2 のガラス基板を備える。第 1 のガラス基板上には、 n (n は自然数) 本の走査線 2 と m (m は自然数) 本の信号線 3 が格子状に配置され、走査線 2 と信号線 3 の各交差部付近に非線形素子 (スイッチング素子) であ

る T F T (Thin Film Transistor) 4 が設けられている。

【 0 0 3 0 】

T F T 4 のゲート電極は走査線 2 に接続され、ソース電極は信号線 3 に接続され、ドレイン電極は画素電極 5 にそれぞれ接続されている。上記第 2 のガラス基板は、第 1 のガラス基板と対向する位置に配置され、I T O 等の透明電極によりガラス基板表面の一面に共通電極 6 が形成されている。そして、この共通電極 6 と第 1 のガラス基板上に形成された画素電極 5 との間に液晶が封入されている。

【 0 0 3 1 】

上記走査線 2 には、図 2 中の符号 V G 1 ~ V G n が付された走査信号が印加され、信号線 3 には図 2 中の符号 V D が付された画像データに応じた信号が印加される。ここで、図 2 に示されるように、各々の走査線 2 に供給される走査信号は、画像データに応じた階調電圧を画素電極 5 に書き込むための画像データ用選択期間 t_1 と、「黒」表示に応じた電圧を画素電極 5 に書き込むための「黒」表示用選択期間 t_2 との 2 つの走査線選択期間を 1 フィールド内に有している。また、各信号線 3 には画像データに応じた階調電圧と「黒」表示に応じた電圧が交互に出力される。

【 0 0 3 2 】

本実施形態の特徴である「黒」表示用選択期間 t_2 は、図 2 に示されるように従来の走査線選択期間 t_3 のほぼ $1/2$ 期間とし、画像データ用選択期間 t_1 が選択される走査線 2 の複数行下又は複数行上の走査線 2 に対して「黒」表示を行う。「黒」表示用選択期間 t_2 における信号線 3 には「黒」表示に応じた電圧が印加され、液晶容量 7 がバックライト 5 2 からの光を遮光することにより黒画面が表示され、走査線毎に「黒」表示を行う、いわゆるリセット駆動がなされる。

【 0 0 3 3 】

次に、第 1 実施形態による液晶表示装置の動作について詳細に説明する。以下の説明においては、複数ある走査線 2 各々を図中の符号 G 1 ~ G n を用いて区別し、信号線 3 各々を符号 D 1 ~ D m を用いて区別する。いま、画像データの表示を走査線 G 1、G 2、…の順に行い、j (j は自然数： $1 < j \leq n$) 本目の走査線 G j から「黒」表示を行うとする。

【 0 0 3 4 】

まず、画像データ用選択期間 t_1 として走査線 G_1 が選択され、この状態において、信号線 D_1 には画像データに応じた階調電圧が印加される。走査線 G_1 に接続された T F T 4 はオン状態になり、液晶容量 7 の表示は画像データに応じた表示となる。次に「黒」表示用選択期間 t_2 として走査線 G_j が選択され、この状態において信号線 3 には「黒」表示に応じた電圧が印加される。この電圧が印加されると、走査線 G_j に接続された T F T 4 はオン状態となり、液晶容量 7 は「黒」表示となる。

【 0 0 3 5 】

走査線 G_j の「黒」表示用選択期間 t_2 が経過すると、次は走査線 G_2 が走査され、走査線 G_1 を走査した場合と同様の動作がなされる、走査線 G_2 の次は走査線 $G_j + 1$ が走査され、走査線 G_j を走査した場合と同様の動作がなされる。以後同様に、走査線 G_3 、 $G_j + 2$ 、…の順で走査線 2 は選択されていく。このような駆動方法をとることにより、液晶表示パネル部 4 4 には図 3 に示されるように帯状の黒画面表示領域が表示される。

【 0 0 3 6 】

図 3 は、動画像を表示する際に、液晶表示パネル部 4 4 に瞬時的に表示される表示内容を示す図である。図 3 に示したように、「黒」表示用選択期間 t_2 が液晶表示パネル部 4 4 のほぼ中央部に設定されている場合には、1 画面が通常画像表示領域 A_1 と、「黒」画面表示領域 A_2 と、通常画像表示領域 A_3 との 3 つの表示領域から構成される。時間が経過するにつれ、「黒」画面表示領域 A_2 は、図 3 中符号 D_1 が付された方向へ移動し、「黒」画面表示領域 A_2 が液晶表示パネル部 4 4 の最下端に到達すると、「黒」画面表示領域 A_2 の一部は液晶表示パネル部 4 4 の最上端に移り、最下端における「黒」画面表示領域 A_2 の占める面積が減少するとともに、最上端における「黒」画面表示領域 A_2 の占める面積が増大しながら、図中符号 D_1 が付された方向へ移動する。

【 0 0 3 7 】

このようにして、本実施形態において、動画像を表示する際の動きぼけを防止するための「黒」表示を行う。尚、「黒」表示用選択期間 t_2 において選択され

る走査線と画像データ用選択期間において選択される走査線の間隔が「黒」画面表示領域 A 2 となる。1 画面において、「黒」画面表示領域 A 2 が占める割合は、動画表示時の動きぼけが確認されない程度にする。また、上述の「黒」表示を行うことにより、「黒」画面表示領域 A 2 は、通常画像表示領域 A 1, A 3 と同様に、走査線 2 の 1 ラインずつスクロールしていくことになり、表示画面の場所による輝度差を引き起こすことはない。

【 0 0 3 8 】

尚、以上の説明においては、画像データ用選択期間 t 1 の後に「黒」表示用選択期間 t 2 を設定した場合を説明したが、「黒」表示用選択期間 t 2、画像データ用選択期間 t 1 の順に設定しても同様の効果が得られる。

【 0 0 3 9 】

次に、LCD コントローラ 4 2 から信号線駆動回路 4 6 へ出力される階調データ D 2 0 及び信号側制御信号 D 2 1 並びに走査線駆動回路 4 8 へ出力される走査側制御信号 D 2 2 を具体的に例示して、動画像及び静止画像各々の表示を行う際の動作について説明する。図 4 は、LCD コントローラ 4 2 から信号線駆動回路 4 6 及び走査線駆動回路 4 8 へ出力される各種信号の具体例を示す図である。一般に液晶表示装置は、XGA 等の大面積の場合には、信号線駆動回路 4 6 及び走査線駆動回路 4 8 は複数の部材からなる。図 4 においては、図 1 に示した走査線駆動回路 4 8 が 3 つの走査線駆動回路 4 8 a ~ 4 8 c からなる場合を例示している。尚、信号線駆動回路 4 6 も複数の部材からなるが、図 4 においては図示を省略している。

【 0 0 4 0 】

LCD コントローラ 4 2 から走査線駆動回路 4 8 a ~ 4 8 c 各々に対して、走査側スタートパルス (STV)、走査側クロック (VCLK)、及び出力制御信号 (OE) が出力される。また、LCD コントローラ 4 2 から信号線駆動回路 4 6 に対して、階調データ (Data)、信号側スタートパルス (STH)、信号側クロック (HCLK)、信号出力パルス (STB)、及び極性反転パルス (POL) が出力される。尚、LCD コントローラ 4 2 は、走査線駆動回路 4 8 a ~ 4 8 c 各々に対して走査側スタートパルス STV 1 ~ STV 3 を出力し、更に、

出力制御信号OE1～OE3を出力して制御しているため、走査線駆動回路48a～48cはLCDコントローラ42によって別個に制御される。

【0041】

ここで、走査側スタートパルスSTV1～STV3は、走査線駆動回路48a～48cに対して走査開始を指示するパルスである。つまり、走査線駆動回路48aは走査側スタートパルスSTV1が、走査線駆動回路48bは走査側スタートパルスSTV2が、走査線駆動回路48cは走査側スタートパルスSTV3がそれぞれ入力されることにより走査を開始する。3つの走査線駆動回路48a～48cが設けられている場合、1フレーム期間は3分割され、分割された各フレーム期間を走査線駆動回路48a、48b、48cが順に走査することにより、液晶表示パネル部44が上方向から下方向へ走査される。

【0042】

また、上記の出力制御信号OE1～OE3は、走査線駆動回路48a～48cがある走査線を走査している場合に、1本の走査線を走査する期間内においてその走査線を活性状態とするか非活性状態とするかを制御する信号である。つまり、本実施形態においては図2を用いて説明したように、1本の走査線を走査する期間を画像データ用選択期間t1と「黒」表示用選択期間t2とに分割している。そして、画像データ用選択期間t1において画像データに応じた階調電圧を印加するために活性化された走査線と異なる走査線に対して、「黒」表示用選択期間t2において「黒」表示に応じた電圧を印加するために活性化している。従って、画像データ用選択期間t1の間は、「黒」表示用選択期間t2において「黒」表示に応じた電圧を印加するための走査線を非活性状態とし、「黒」表示用選択期間t2の間は、画像データ用選択期間t1において画像データに応じた階調電圧を印加するための走査線を非活性状態とする必要がある。出力制御信号OE1～OE3は、以上説明した走査線の活性及び非活性を制御するために用いられる。

【0043】

次に、静止画像を表示する際の動作について説明する。尚、前述したように、表示する画像が静止画像である場合には、図1中のコンピュータ30から出力さ

れる画像判別信号の値は「L」となっている。図5は、静止画像を表示する際に、LCDコントローラ42から出力される各種信号を示すタイミングチャートである。尚、図5においては液晶表示パネル部44が768本の走査線を有する場合の1フレーム分の信号を図示しており、VG1、VG257、VG513は、第1番目、第257番目、及び第513番目の走査線に印加される走査信号の波形をそれぞれ示している。尚、走査線が768本ある場合、走査線駆動回路48aは第1番目～第256番目の走査線を、走査線駆動回路48bは第257番目～第512番目の走査線を、走査線駆動回路48cは第513番目～第768番目の走査線をそれぞれ走査する。

【0044】

図5に示したように、静止画像を表示する場合には1フレーム期間内において、各走査線駆動回路48a～48cに対して走査側スタートパルスSTV1～STV3が1回だけ出力され、走査線駆動回路48a～48cによって線順次駆動が行われる。また、静止画像を表示する場合には、1つの走査線を走査する期間内において、走査線の活性及び非活性を制御する必要がないため、出力制御信号OE1～OE3は常時「L」に制御される。図5から分かるように、静止画像を表示する場合には線順次駆動が行われ、走査を行っている走査線は1本の走査線を走査する期間の間、一定の電圧が印加されて活性状態が保持される。

【0045】

また、静止画像を表示している場合においては、図1に示したバックライト制御回路56に対しても、値が「L」である画像判別信号J1が入力されている。この場合、バックライト制御回路56はバックライト52から発せられる光の輝度を、従来の液晶表示装置が備えるバックライトから発せられる光の輝度と同程度に設定する。

【0046】

次に、動画像を表示する際の動作について説明する。尚、前述したように、表示する画像が動画像である場合には、図1中のコンピュータ30から出力される画像判別信号の値は「H」となっている。図6は、動画像を表示する際に、LCDコントローラ42から出力される各種信号を示すタイミングチャートである。

尚、図 6 においても液晶表示パネル部 4 4 が 7 6 8 本の走査線を有する場合の 1 フレーム分の信号を図示しており、VG 1、VG 2 5 7、VG 5 1 3 は、第 1 番目、第 2 5 7 番目、及び第 5 1 3 番目の走査線に印加される走査信号の波形をそれぞれ示している。

【 0 0 4 7 】

図 6 に示したように、動画像を表示する場合には 1 フレーム期間内において、各走査線駆動回路 4 8 a ~ 4 8 c に対して走査側スタートパルス ST V 1 ~ ST V 3 が 2 回出力され、一時に 2 本の走査線が走査される。また、動画像を表示する場合には、1 つの走査線を走査する期間内において、一時に 2 本走査されている走査線の何れか一方のみを活性化する制御を行う必要がある。よって、出力制御信号 OE 1 ~ OE 3 は、周期が 1 本の走査線を走査する期間の半分の周期に設定され、かつ位相が 1 フレーム内において一度だけ反転する信号となる。ここで、出力制御信号 OE 1 ~ OE 3 の位相を 1 フレーム内で一度だけ反転させるのは以下の理由による。

【 0 0 4 8 】

つまり、図 4 に示したように、LCD コントローラ 4 2 から信号線駆動回路 4 6 には、画像データに応じた階調電圧と「黒」表示に応じた電圧とが交互に供給されている（図 6 に示した STH (Data) 参照）。尚、図 6 に示した STH (Data) において、符号「B」が付された箇所は「黒」表示に応じた電圧が供給される箇所である。かかる信号が供給されている状態で、ある走査線に接続された画素電極 5 に印加する電圧を、画像データに応じた階調電圧から「黒」表示に応じた電圧へ切り換え、また、「黒」表示に応じた電圧から画像データに応じた階調電圧へ切り換える必要があるために位相の反転が行われる。換言すると、画像データ用選択期間 t_1 と「黒」表示用選択期間 t_2 とを切り換えるために位相反転が行われる。図 6 に示した例では、符号 P 1 ~ P 3 を付した箇所で、出力制御信号 OE 1 ~ OE 3 各々の極性が反転される。尚、図 6 に示した例では、7 6 8 本の走査線の 3 分の 1 にあたる 2 5 6 本の走査線に対して「黒」表示が行われている。

【 0 0 4 9 】

また、動画像を表示している場合においては、図 1 に示したバックライト制御回路 5 6 に対しても、値が「H」である画像判別信号 J 1 が入力されている。この場合、バックライト制御回路 5 6 はバックライト 5 2 から発せられる光の輝度を、従来の液晶表示装置が備えるバックライトから発せられる光の輝度よりも高く設定する制御を行う。これは、前述のように、動画像表示時における動きぼけを防止するために「黒」表示を行っているが、「黒」表示を行うことで液晶表示パネル部 4 4 の表示輝度が低下するため、バックライト 5 2 から発せられる光の輝度を高く設定することにより、表示輝度の低下を防止している。

【 0 0 5 0 】

以上説明した実施形態では、説明の簡単化のために複数の走査線駆動回路 4 8 a ~ 4 8 c を設け、これらの 1 つに接続された走査線分を「黒」画面表示領域 A 2 (図 3 参照) に設定する場合を例に挙げて説明したが、液晶表示パネル部 4 4 の表示画面内における「黒」画面表示領域 A 2 の面積は、任意に設定することができる。

【 0 0 5 1 】

〔第 2 実施形態〕

次に、本発明の第 2 実施形態について説明する。上述した本発明の第 1 実施形態では、画像データが動画であるか又は静止画であるかによって、液晶表示装置の表示方法やバックライトを制御していた。動画像を表示する場合には、液晶表示パネル部 4 4 の一部に表示する場合もある。ところで、ホールド型表示装置に起因する動きぼけは、表示される動画像の動き量と目の随従運動能力との差により発生している。よって、液晶表示パネル部 4 4 内における動き量が大の動画像では動きぼけが大きく、動き量の小さな動画像では動きぼけは小さくなるという報告がされている (1 9 9 9 年電子情報通信学会総合大会、S C - 8 - 1、P 2 0 7 ~ P 2 0 8)。

【 0 0 5 2 】

つまり、液晶表示パネル部 4 4 の全体ではなく、一部にウィンドウとして表示する場合であって、そのウィンドウの面積がある程度小さい場合には、表示される動画像の動き量と目との随従運動能力との差が小さいため、動きぼけは余り知

覚されないことになる。そこで、本発明の第 2 実施形態においては、液晶表示装置の表示方法やバックライトを制御するか否かの判断基準を、液晶表示パネル部 4 4 と動画像を表示するウィンドウとの面積比に基づいて行う。つまり、液晶表示パネル部 4 4 と動画像を表示するウィンドウとの面積比がある閾値以上である場合には、液晶表示パネル部 4 4 に表示される画像が動画像であると判断し、画像判別信号 J 1 を「H」とする。一方、液晶表示パネル部 4 4 と動画像を表示するウィンドウとの面積比がある閾値よりも小である場合には、液晶表示パネル部 4 4 に表示される画像が静止画像であると判断し、画像判別信号 J 1 を「L」とする。以下、この判断方法について図面を参照して具体的に説明する。

【 0 0 5 3 】

図 7 は、液晶表示パネル部 4 4 とウィンドウとの面積比に基づいて液晶表示パネル部 4 4 に表示される画像が動画像であるか否かを判断する原理を説明するための図である。コンピュータ 3 0 で動画像を扱う場合、一般的にハードウェア的なオーバーレイ機能を使用して処理速度を高めている。図 7 において、7 0 は画像データを一時的に記憶させるための V R A M であり、この V R A M 7 0 内には表示用の画像データを一時的に記憶させるオンスクリーン領域 S C 1 と、動画像情報を一時的に記憶させるオフスクリーン領域 S C 2 とが設けられている。

【 0 0 5 4 】

動画像を扱うアプリケーションが起動された場合、オンスクリーン領域 S C 1 内にはオフスクリーン領域 S C 2 に記憶された動画像を液晶表示パネル部 4 4 内のどの位置に表示させるかを規定する領域 R 1 が確保される。尚、オンスクリーン領域 S C 1 内において、符号 R 2 を付した領域は例えば液晶表示パネル部 4 4 の表示領域を示している。

【 0 0 5 5 】

領域 R 1 には、キーカラー（例えば、黒、濃紺等）を示すデータが格納される。動画像を表示する場合には、オーバーレイ選択回路 7 2 がオフスクリーン領域 S C 2 に一時的に記憶されている動画像を、オンスクリーン領域 S C 1 に規定されたキーカラーを示すデータが格納された領域 R 1 に読み込んだ画像データ I m を作成して液晶表示装置 4 0 に表示するように構成されている。以上の構成はオ

オーバーレイ機能を実現するために従来から用いられている構成である。

【0056】

本発明の第2実施形態では、上記構成に加えて動画・静止画判別用領域閾値メモリ74とキーカラー領域検出・比較回路76とを備える。動画・静止画判別用領域閾値メモリ74は、液晶表示パネル部44と動画像の表示領域を規定する領域R1との面積比に基づいて、画像が動画像であると判断するための閾値を記憶する。またキーカラー領域検出・比較回路76は、オンスクリーン領域SC1内に設定されたキーカラーを示すデータが格納された領域R1を検出し、この領域R1と液晶表示パネル部44の表示領域を示す領域R2との面積比を求め、この面積比が動画・静止画判別用領域閾値メモリ74に記憶された閾値と比較することにより、画像が動画像であるか否かを判断し、その判断結果を画像判別信号J1として出力する。尚、動画像と判断される画像は、画像全体の一部に動画像が含まれる画像を含んでいる。

【0057】

〔第3実施形態〕

次に、本発明の第3実施形態による液晶表示装置について説明する。図8は、本発明の第3実施形態による液晶表示装置の構成を示す機能ブロック図である。図8に示した本発明の第3実施形態による液晶表示装置は、コンピュータ30から出力される画像データが動画像であるか否かを判断するための画像判別回路60を備え、図1に示したコンピュータ30から出力される画像判別信号J1を省略した点が図1に示した第1実施形態による液晶表示装置と異なる。

【0058】

図1に示した第1実施形態では、画像判別信号J1がコンピュータ30から出力される構成であったため、画像が動画像であるか否かを判断する回路をコンピュータ30内に設けなければならなかった。しかしながら、本実施形態では液晶表示装置40自体が画像が動画像であるか否かを判断する画像判別回路60を備え、コンピュータ30のハードウェア的な構成を変更する必要がないため、装置構成上好適である。

【0059】

図 9 は、画像判別回路 6 0 の内部構成を示す機能ブロック図である。画像判別回路 6 0 はフレームメモリ 6 2 と比較判定回路 6 4 とを備える。フレームメモリ 6 2 は、コンピュータ 3 0 から出力される画像データを 1 フレーム分記憶する。比較判定回路 6 4 はコンピュータ 3 0 から出力される画像データと、フレームメモリ 6 2 に記憶されている 1 フレーム前の画像データとを比較し、画像が動画像であるか否かを判断する。

【 0 0 6 0 】

次に、画像判別回路 6 0 の動作について説明する。図 1 0 は、画像判別回路の動作を説明するための図である。図 1 0 (a) はフレームメモリ 6 2 に記憶された 1 フレーム前の画像データの一例を示し、図 1 0 (b) はパーソナルコンピュータ 3 0 から現在出力されたフレームの画像データの一例を示している。図 1 0 に示した例は、自動車が目の前を横切る動画像であり、自動車のみが動いているとする。かかる動画像に対して比較判定回路 6 4 は、フレーム間において画像データが異なるのでコンピュータ 3 0 から出力される画像データは動画像を示す画像データであると判断する。

【 0 0 6 1 】

尚、以上説明した第 3 実施形態では、2 つのフレームについて動き量があるか否かに基づいて画像データが像画像であるか否かを判断していたが、フレームメモリ 6 2 の記憶容量を増して複数フレームの画像データを記憶することができるようにして複数フレーム間の比較を行って動画像であるか否かを判断するようにしても良い。また、上記実施形態では、フレーム間で動き量があった場合に動画像であるか否かを判断しているため、液晶表示パネル部 4 4 の表示面積に対する動画像の表示面積が小であり、第 1 実施形態で説明した動作制御を行う必要がないと考えられる場合にも画像判別信号が「H」となる場合が考えられる。そこで、フレーム間全体を比較するのではなくフレームを数ブロックに区分した検出領域を設定するとともに、動画像であると判断するための閾値を設定し、動き量が検出されたブロック数が、閾値以上であれば動画像と判断するようにしてもよい。また、フレームをブロックに区分して検出領域を設定するのではなく、フレーム内に検出点を数点設定することにより検出領域を設定するようにしても良い。

【 0 0 6 2 】

以上、本発明の実施形態による液晶表示装置について説明したが、本発明は上記実施形態に制限されることなく、本発明の範囲内において自由に変更が可能である。例えば、上記実施形態では、1本の走査線を走査する期間を、画像データ用選択期間 t_1 と「黒」表示用選択期間 t_2 とに区分することにより「黒」表示を行って動きぼけを防止するようにしていたが、「黒」表示の方法はこれに限らず、図17を用いて説明した方法や、図18に示した構成を有する液晶表示装置にも適用することができる。また、「黒」を表示する場合に限らず、画像データの一部に単色を表示することによって動きぼけを防止することができるものであれば本発明を適用することが可能である。

【 0 0 6 3 】

【発明の効果】

以上説明したように本発明によれば、表示する画像が動画像であるか又は静止画像であるかに基づいてバックライトの輝度を制御する輝度制御手段を設けたので、動画像を表示させる場合に輝度低下を招くことがないという効果が得られる。更に、表示する画像が動画像であるか又は静止画像であるかに基づいて動画像の一部又は全体を所定時間単色表示とする表示制御手段を備えたので、動きぼけを防止した表示を行うことができるという効果がある。

また、静止画像を表示する場合には、表示制御手段が静止画像の一部又は全体を所定時間単色表示とすることはなく、従来の液晶表示装置と同様に線順次駆動を行うため、フリッカ等の画質劣化を招かないという効果が得られる。更に、静止画像を表示する場合には、表示制御手段が静止画像の一部又は全体を所定時間単色表示にする制御を行わないため、表示輝度の低下が生じない。その結果として、バックライトの輝度を高く設定する必要がないため、無駄な電力消費を抑制することができるという効果が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の第1実施形態による液晶表示装置の概略構成を示す機能ブロック図である。

【図2】 液晶表示パネル部44の構成並びに信号線駆動回路46及び走査

線駆動回路 4 8 から液晶表示パネル部 4 4 へ出力される信号の一部の波形を示す図である。

【図 3】 動画像を表示する際に、液晶表示パネル部 4 4 に瞬時的に表示される表示内容を示す図である。

【図 4】 L C D コントローラ 4 2 から信号線駆動回路 4 6 及び走査線駆動回路 4 8 へ出力される各種信号の具体例を示す図である。

【図 5】 静止画像を表示する際に、L C D コントローラ 4 2 から出力される各種信号を示すタイミングチャートである。

【図 6】 動画像を表示する際に、L C D コントローラ 4 2 から出力される各種信号を示すタイミングチャートである。

【図 7】 液晶表示パネル部 4 4 とウィンドウとの面積比に基づいて液晶表示パネル部 4 4 に表示される画像が動画像であるか否かを判断する原理を説明するための図である。

【図 8】 本発明の第 3 実施形態による液晶表示装置の構成を示す機能ブロック図である。

【図 9】 画像判別回路 6 0 の内部構成を示す機能ブロック図である。

【図 1 0】 画像判別回路の動作を説明するための図である。

【図 1 1】 従来の液晶表示装置の概略構成を示すブロック図である。

【図 1 2】 従来のアクティブマトリクス型 L C D の構成の一例を示す図である。

【図 1 3】 従来の液晶表示装置が備える走査線駆動回路 1 1 8 及び信号線駆動回路 1 1 6 から走査線 1 3 1 及び信号線 1 3 2 にそれぞれ出力される信号の波形を示す図である。

【図 1 4】 ある画素について C R T と L C D の表示光の時間応答の比較結果を示す図であり、(a) は C R T の時間応答を示す図であって、(b) は L C D の時間応答を示す図である。

【図 1 5】 C R T 及び L C D で動画像を表示した場合の画像の表示例を示す図であり、(a) は C R T の表示例を示す図であって、(b) は L C D の表示例を示す図である。

【図 1 6】 C R T 及び L C D で動画像を表示する場合に、人間によって視認される画像を説明するための図であり、（a）は C R T の場合、（b）は L C D の場合である。

【図 1 7】 各画像データ間に黒画像を挿入して動きぼけを防止する方法を説明する図である。

【図 1 8】 図 1 7（a）に示した方法によって生ずる問題を解決する液晶表示装置の構成を示す図である。

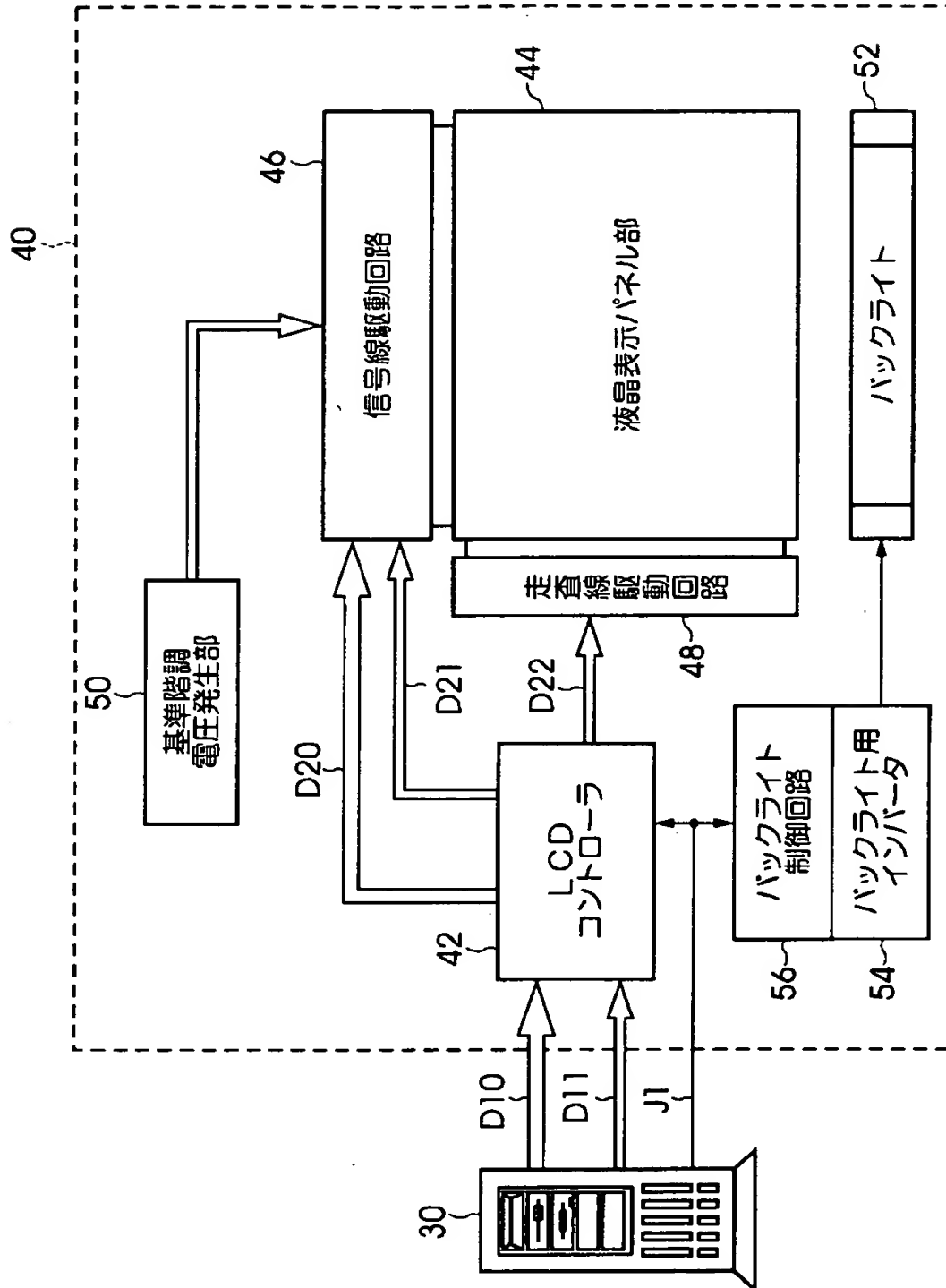
【符号の説明】

- 2 走査線
- 3 信号線
- 4 2 L C D コントローラ（表示制御手段）
- 4 4 液晶表示パネル部
- 5 6 バックライト制御回路（輝度制御手段）
- 6 0 画像判別回路（判定手段）
- 6 2 フレームメモリ（記憶手段）
- 6 4 比較判定回路（比較判定手段）
- J 1 画像判別信号
- t 1 画像データ用選択期間（第 1 走査期間）
- t 2 「黒」表示用選択期間（第 2 走査期間）

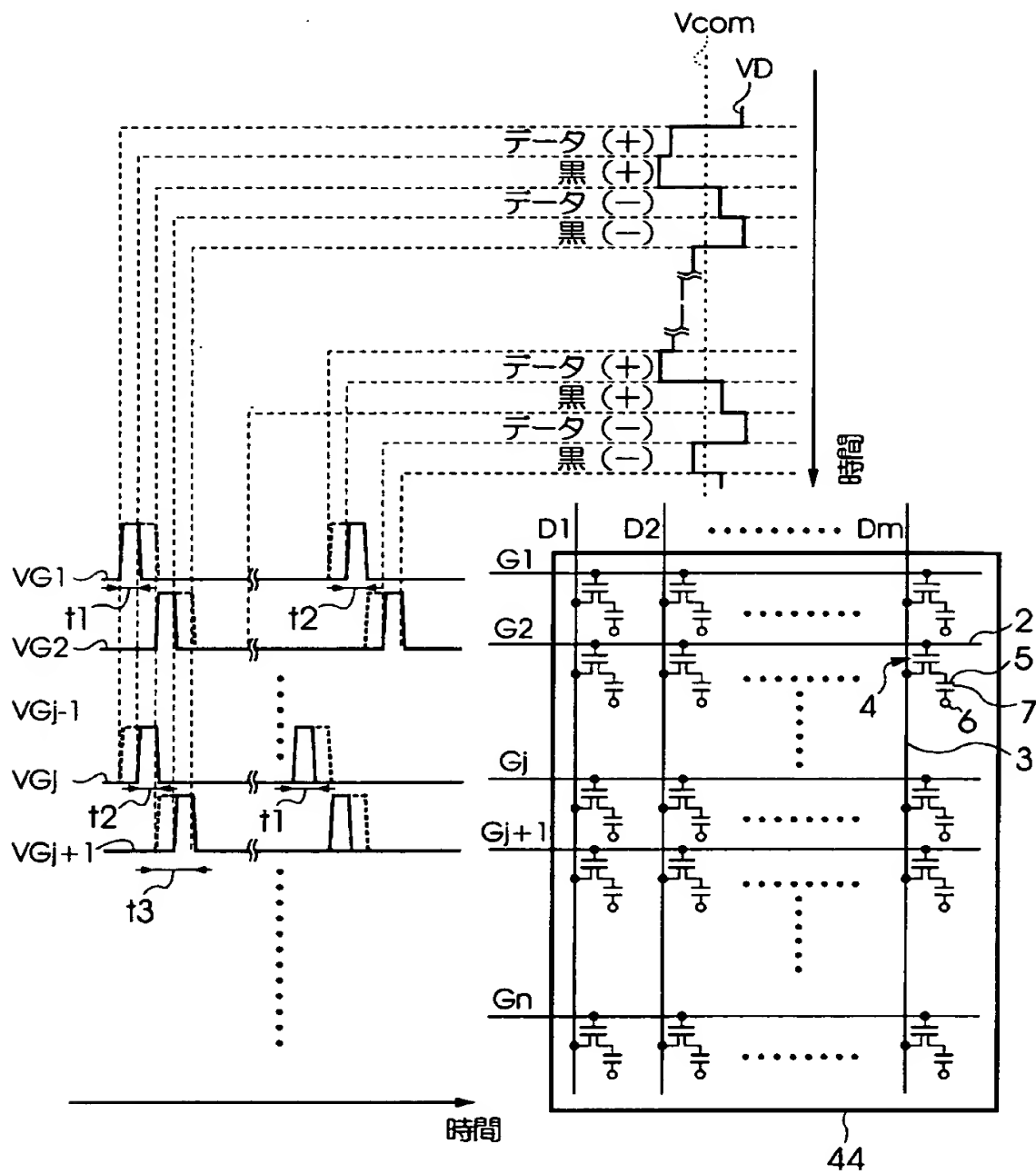
【書類名】

図面

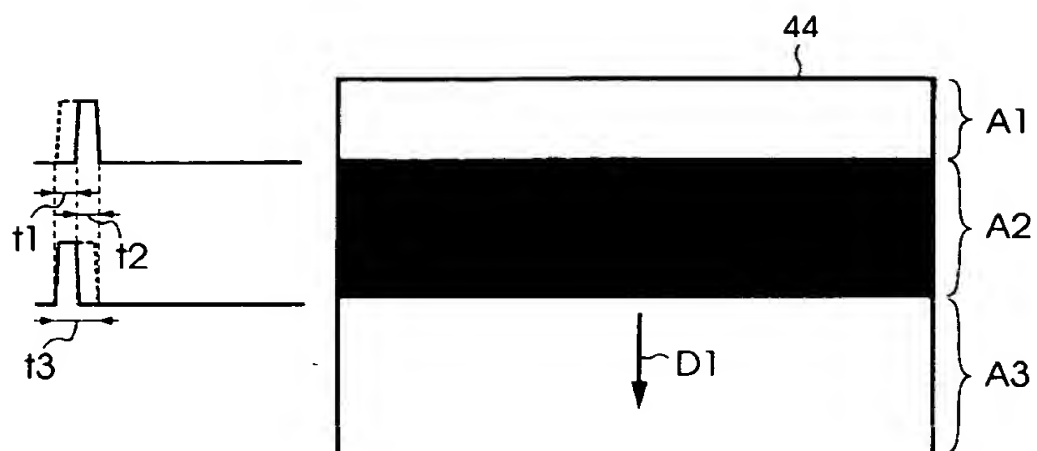
【図 1】



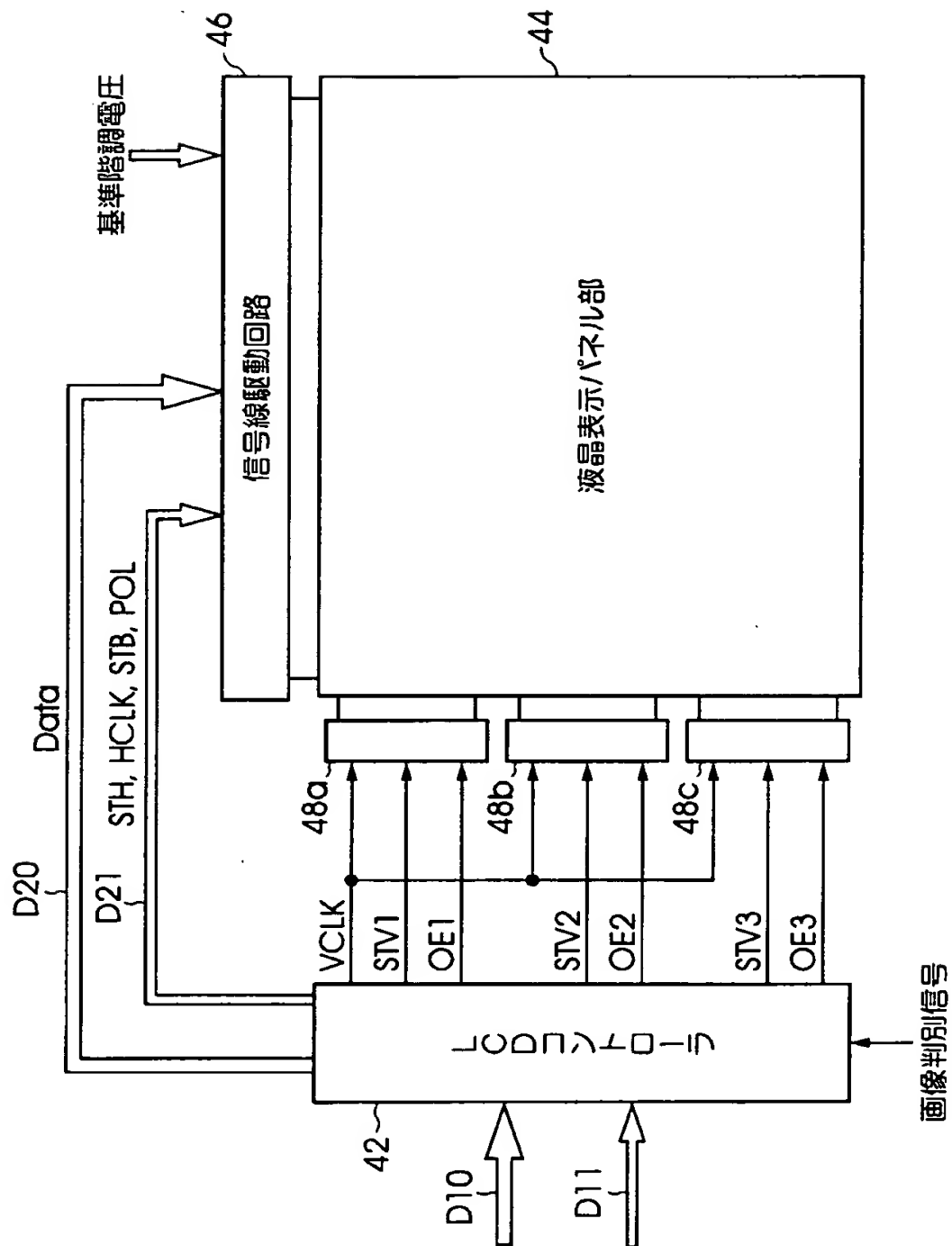
【図 2】



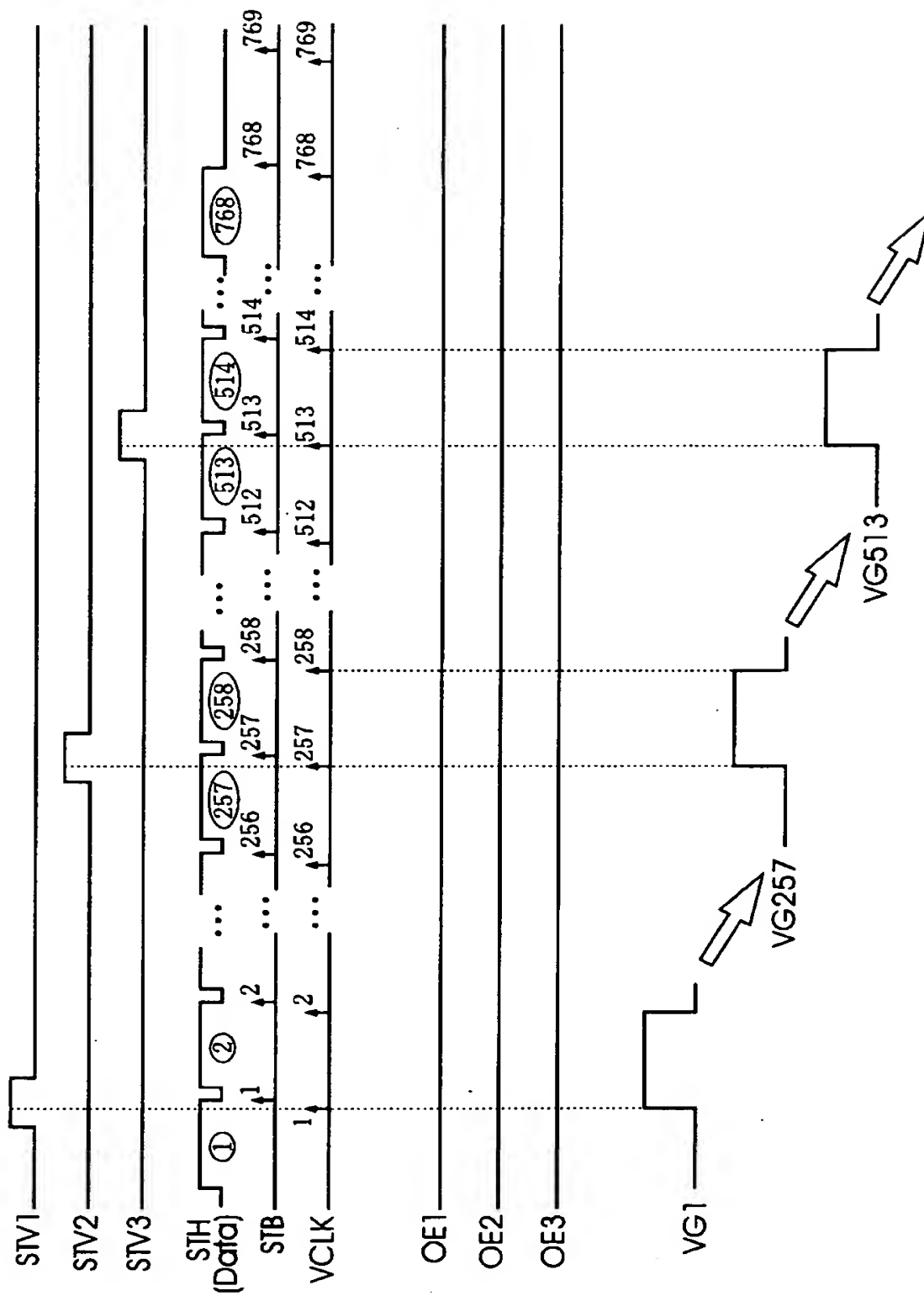
【図 3】



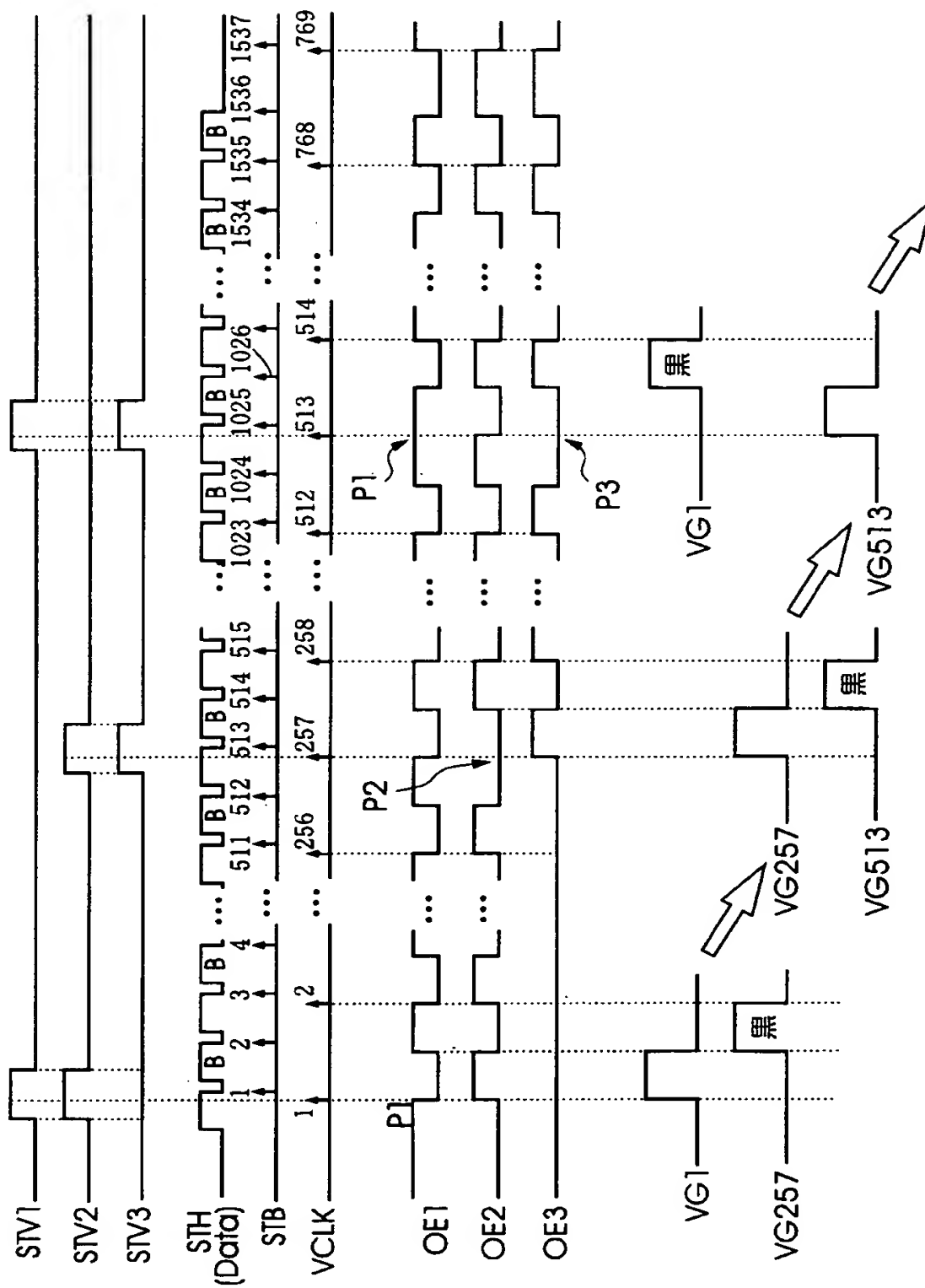
【 図 4 】



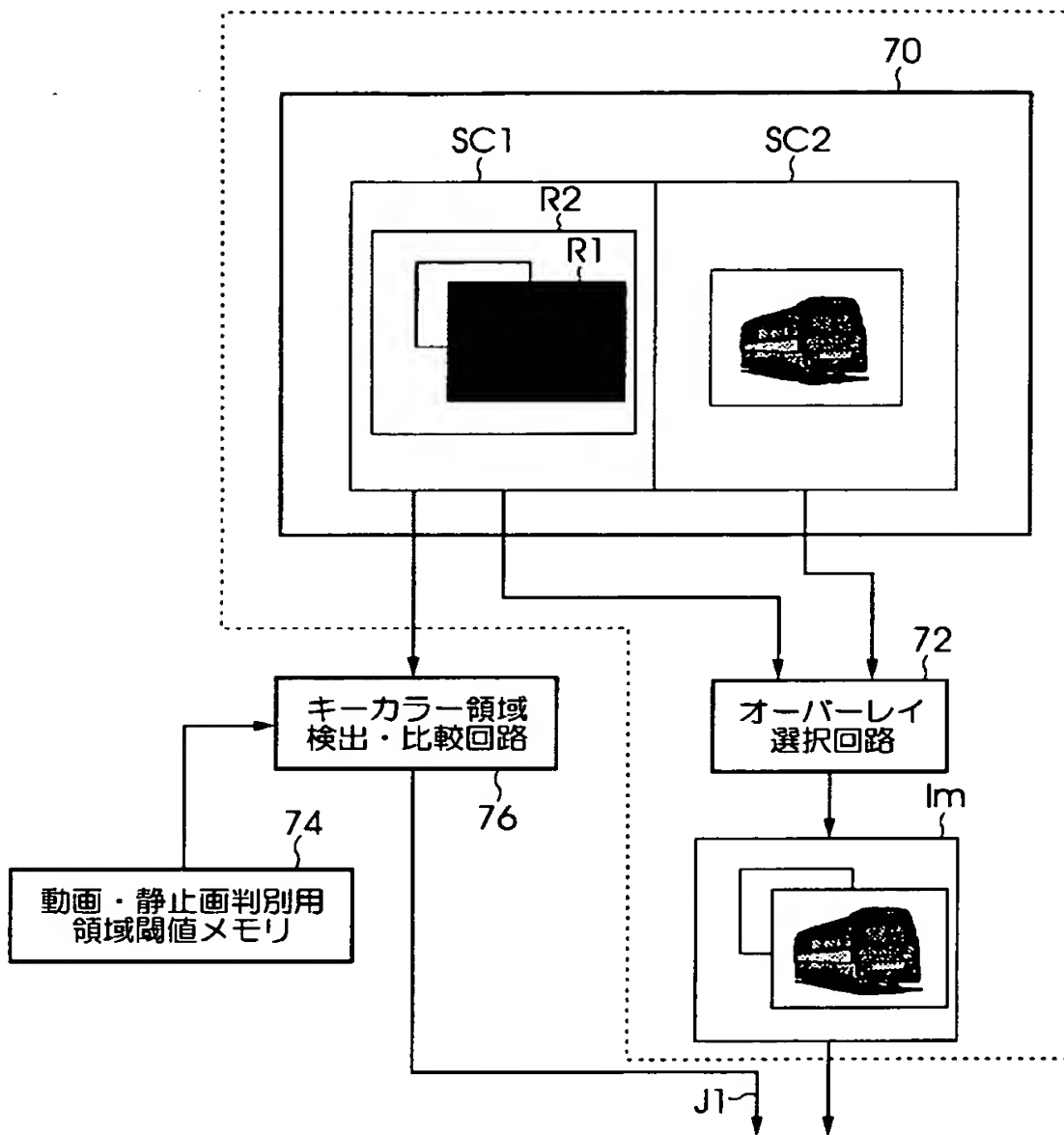
【図 5】



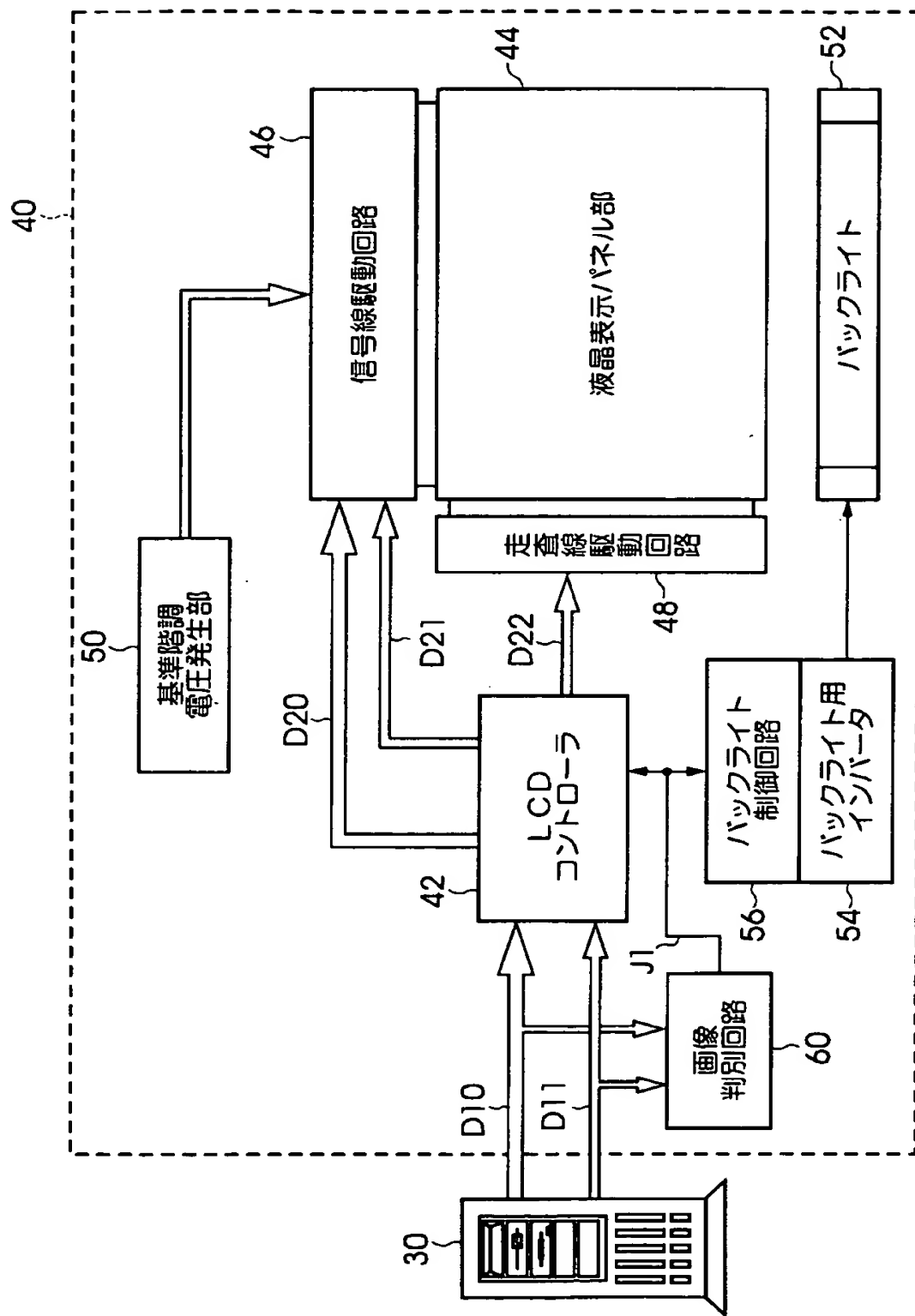
【図 6】



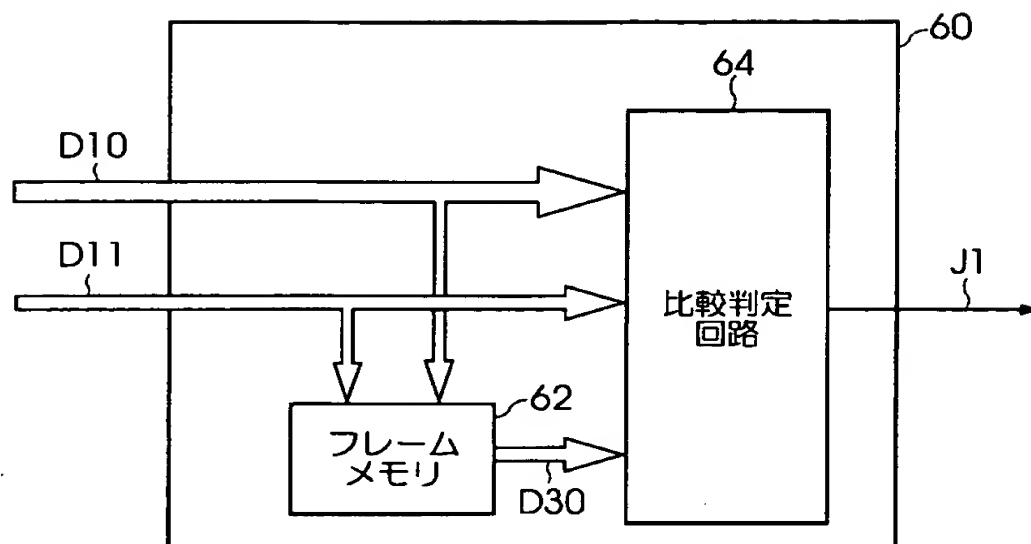
【図 7】



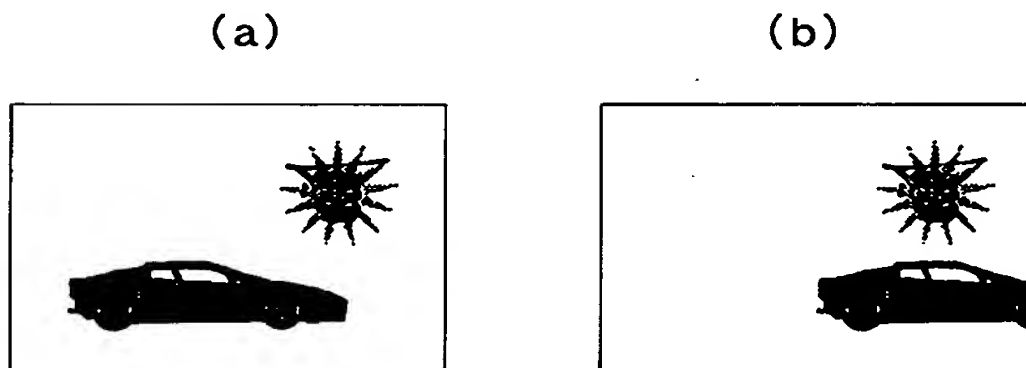
【図 8】



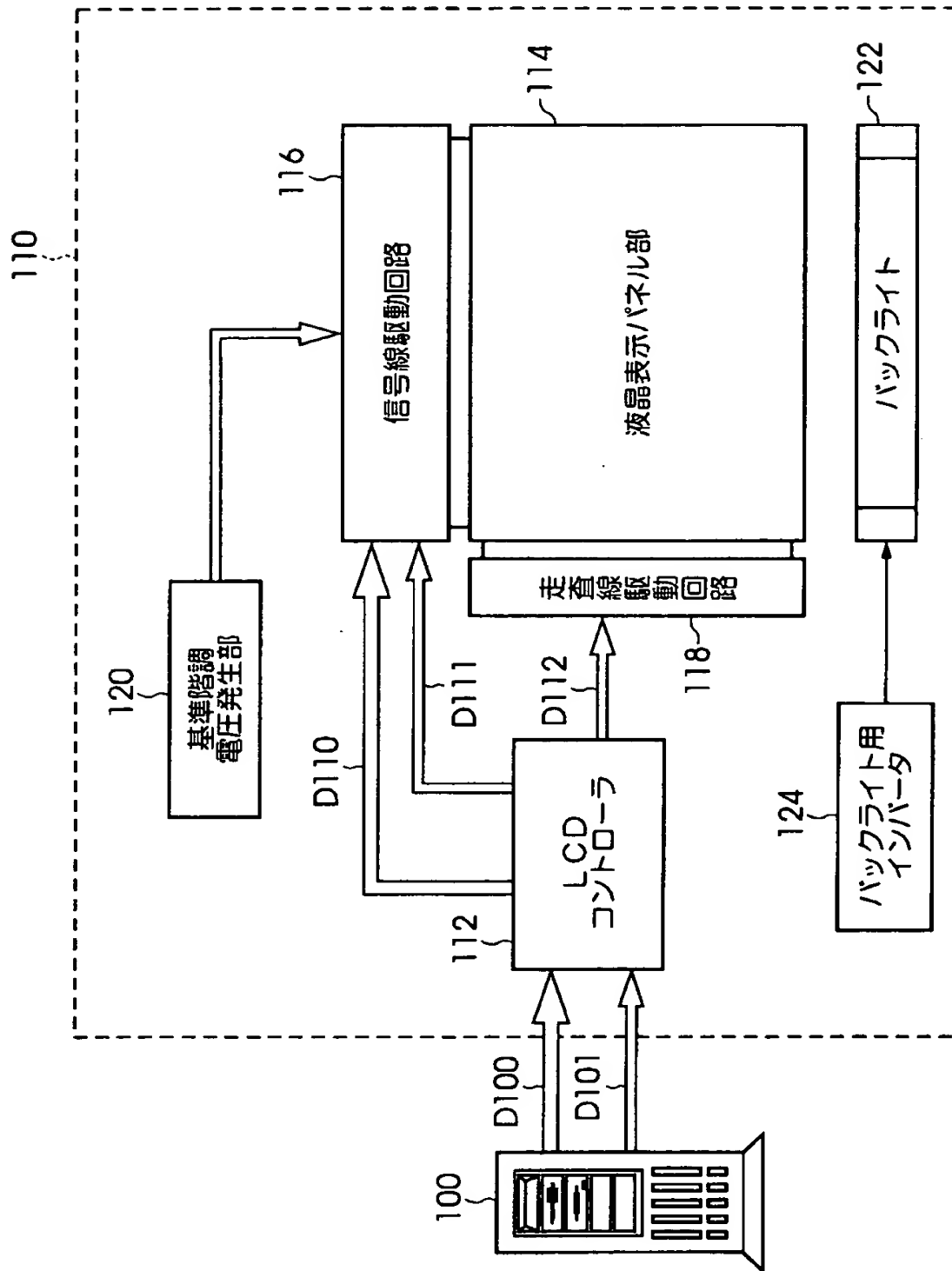
【図 9】



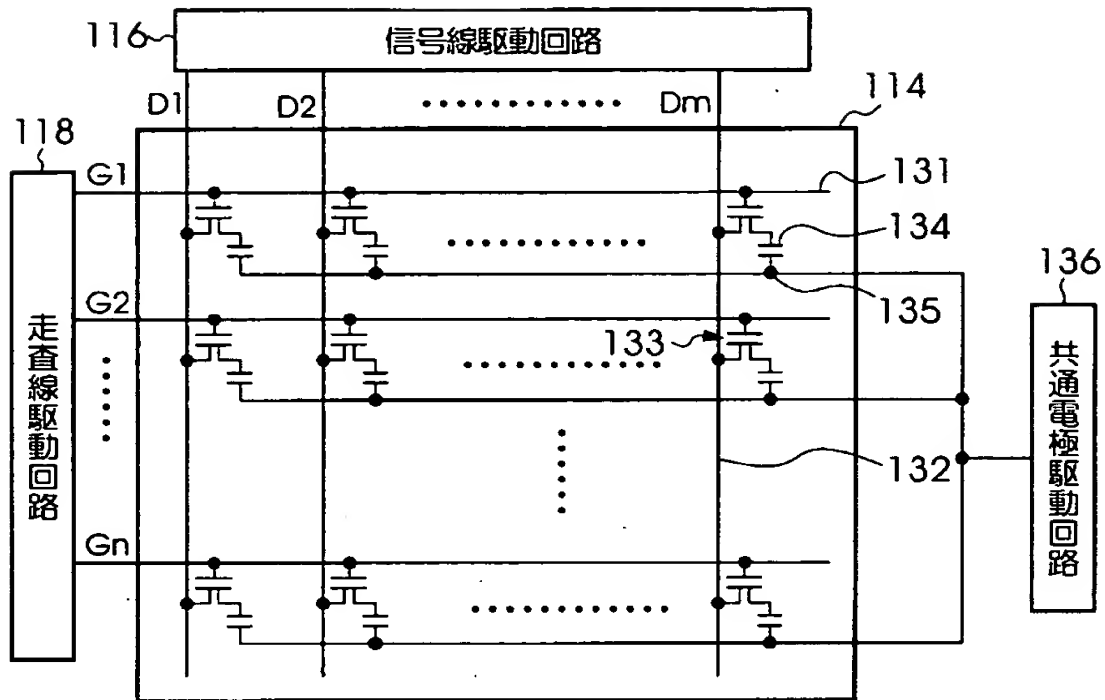
【図 1 0】



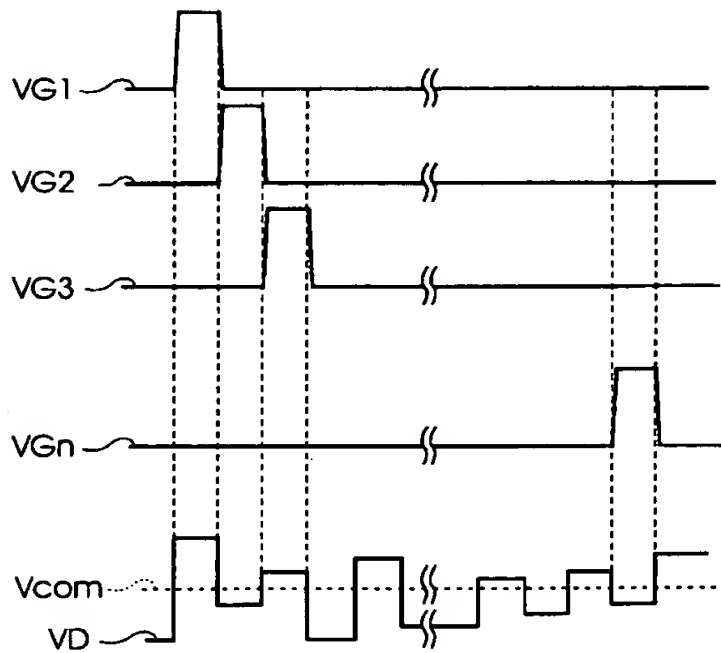
【図 11】



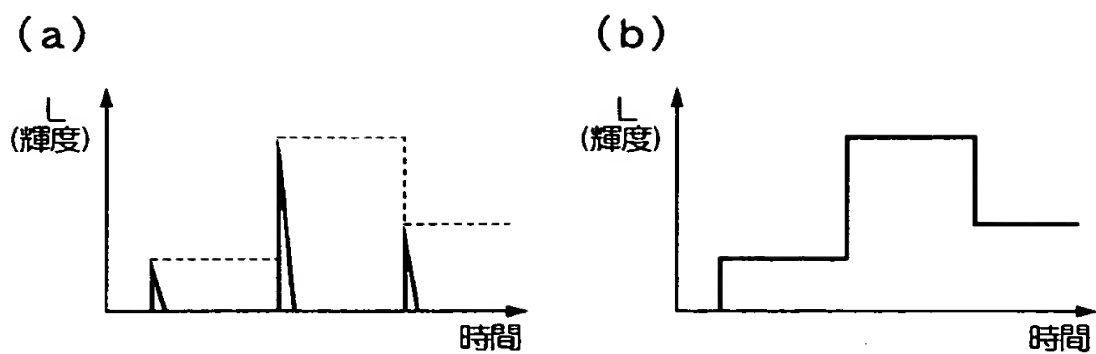
【図 1 2】



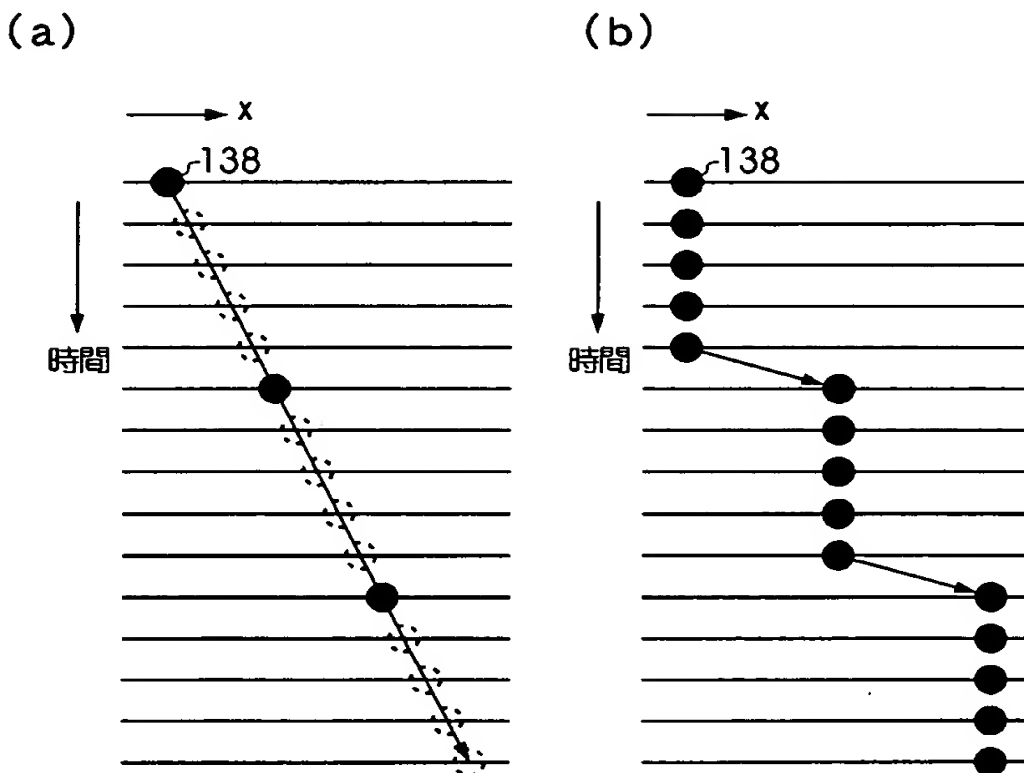
【図 1 3】



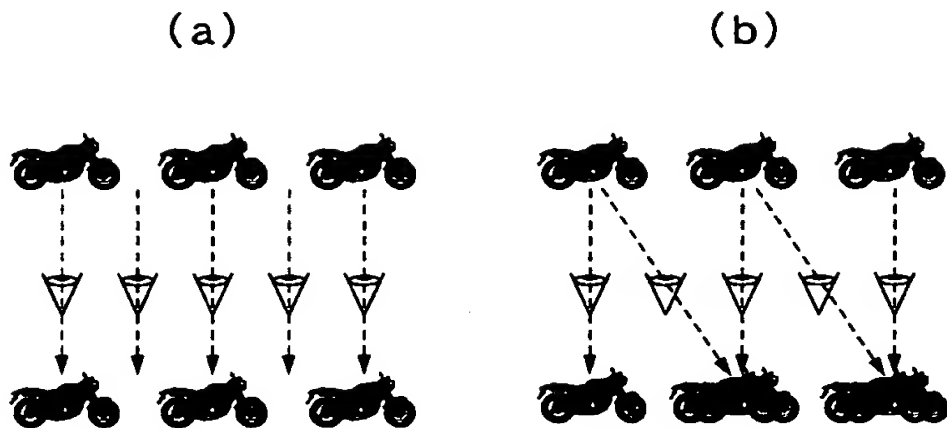
【図 1 4】



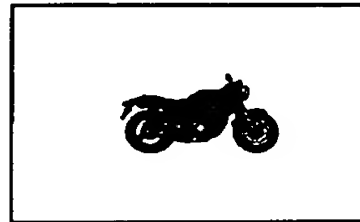
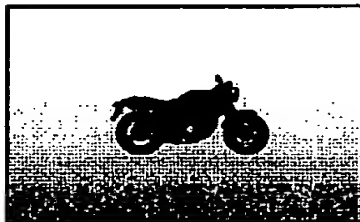
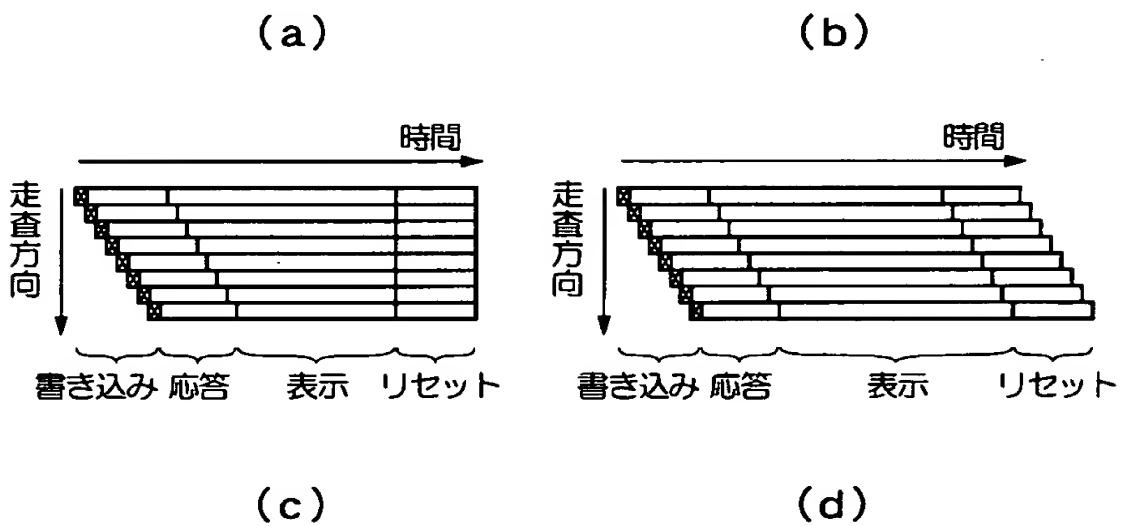
【図 1 5】



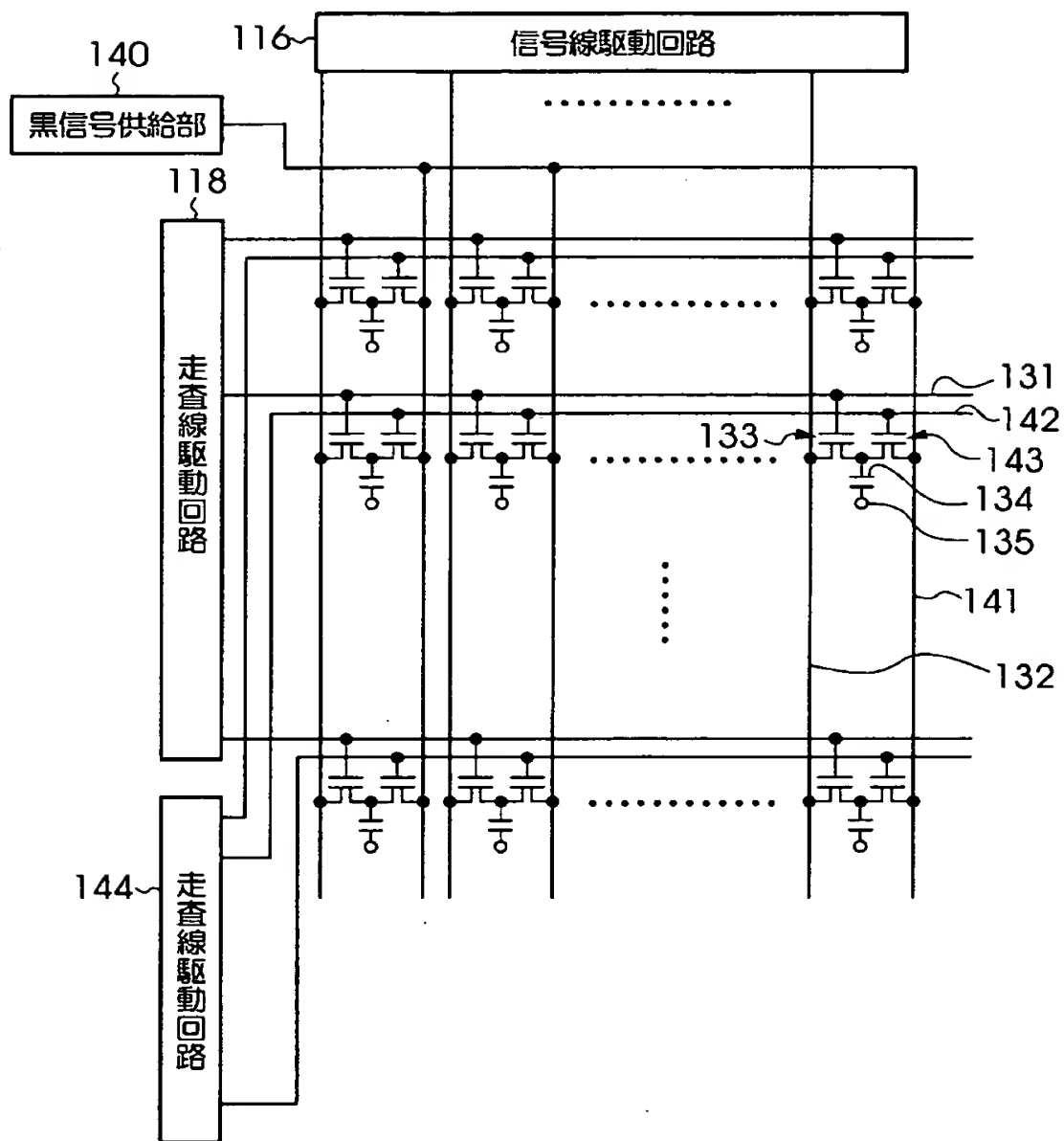
【図 16】



【図 17】



【図 1 8】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 動画像を表示させる場合には、輝度低下を招かずに動きぼけを防止した表示を行うことができ、静止画像を表示させる場合にはフリッカ等の画質劣化を招かずに無駄な電力消費を抑制することができる液晶表示装置を提供する。

【解決手段】 液晶表示パネル部 4 4 に表示される画像が動画像であるか又は静止画像であるかに基づいてバックライト 5 2 の輝度を制御することにより液晶表示パネル部 4 4 の表示輝度を可変制御するバックライト制御回路 5 6 と、液晶表示パネル部 4 4 に表示される画像が動画像である場合に、動画像の一部又は全体を所定時間単色表示とする LCD コントローラ 4 2 を備える。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2000-314274
受付番号	50001329734
書類名	特許願
担当官	渡辺 正幸 7072
作成日	平成 12 年 10 月 20 日

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】	000004237
【住所又は居所】	東京都港区芝五丁目 7 番 1 号
【氏名又は名称】	日本電気株式会社

【代理人】

申請人

【識別番号】	100108578
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 23 番 3 号 ORビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	高橋 詔男

【代理人】

【識別番号】	100064908
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 23 番 3 号 ORビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	志賀 正武

【選任した代理人】

【識別番号】	100101465
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 23 番 3 号 ORビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	青山 正和

【選任した代理人】

【識別番号】	100108453
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場 3 丁目 23 番 3 号 ORビ ル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	村山 靖彦

出願人履歴情報

識別番号 [000004237]

1. 変更年月日 1990年 8月29日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都港区芝五丁目7番1号
氏 名 日本電気株式会社